

活動報告書

報告者氏名：大木 洋美 所属：静岡県伊豆の国市立葦山南小学校

キーワード：ダウン症、読み書き支援、自己肯定感、達成感、コミュニケーション

【対象児の情報】

○学年 小学5年生／10歳

○障害と困難の内容

◎ダウン症

■知的障がい

- ・平仮名の習得は、音と文字の一致はしているが、特殊音節などを含む語を読むことに困難がある。
- ・何事にも受け身であり、「困った」場面でも発信をせず、じっとして（支援を待って？）いる。コミュニケーションについては、相手の発言に対しての返答はできない。
- ・微細運動、粗大運動ともに発達の遅れがある。手先が不器用で、作業がゆっくりである。視力が低く、視野が狭いせいか、よく物にぶつかったり、足を踏み外したりする。高所や傾斜を苦手としている。
- ・甲状腺機能低下症があり、服薬を継続している。尿意を感じにくく、尿塞を起こしやすい。気温の変化で体調の変調をきたす。

○キーワード ダウン症、音韻の習得、自己有用感、達成感、自信、主体性。健康維持

【活動進捗】

①音韻意識の高まりが見られ、生活の中で理解し、使える言葉が増える。

②伝わってよかった、伝わってうれしいという経験を蓄積し、コミュニケーションを主体的にとろうとする意欲を高める。

③認知や記憶、操作の困難を支えることで、行事や作業に主体的に活動に参加できる。

④保護者と連携し、健康を意識し、規則正しいリズムで生活できるようになる。

- ・実施期間 2019年4月6日～2020年2月
- ・実施者 大木洋美
- ・実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

発達検査 48 田中ビネー検査(令和元年 5 月)

(学習面から)

- ・昨年度の魔法の取り組みの実践により、第 2 学年の教科書の音読に取り組んだり、第 1 学年漢字 80 文字中 25 文字は読めるようになった。しかし、依然として濁音や撥音、拗音、長音などの習得には課題がある。清音で書かれた言葉についても、意味の理解が不十分である。
- ・板書などをノートに書く場面では、言葉としてではなく、文字の形を真似て書いている。文字の形を正確にとれないため、自分の書いた文字を読み返すことができない。
- ・指を使つての数え足し・引きであるが、繰り上がりのある一桁同士の計算ができる。

(関心・意欲・態度の面から)

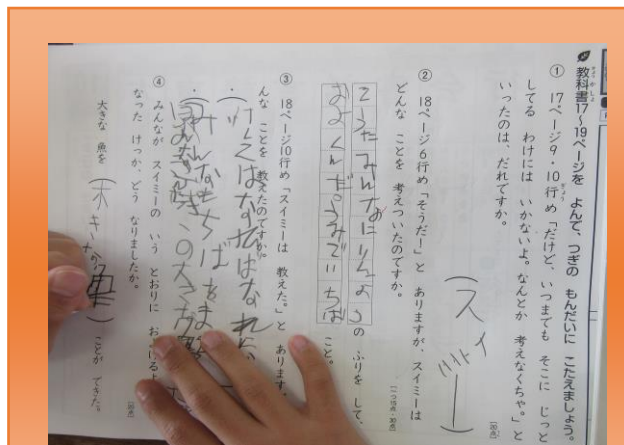
- ・周囲への関心が高く、積極的に話し掛けているが、発音が不明瞭である上に、自分の言いたいことを一方的に話すので、双方向のコミュニケーションが成り立ちにくい。交流学級の友達や担任には、常に笑顔で素直に従う。対話は返事とオウム返しのみで、自発的な発言はしない。
- ・幼少時から療育を受け続けてきたせいか、支援に対して受け身である。困ったときにじっとしている(支援を待ち続ける?) 様子が見られる。言われたことには真面目に取り組み、周囲の児童を真似て課題に取り組もうとしている。一方で、途中の指導が入りにくく、課題の理解が不十分のまま、自分のやり方に固執する頑固な面もある。

(感覚・健康面から)

- ・裸眼視力 0.1、矯正視力 0.7 と記録にあるが、教師の見立てとしては見えづらい印象が強い。視野が左右に 150 度程度、上下に 120 度程度である。そのため階段や側溝を踏み外したり、物にぶつかったりする。
- ・年齢相当の体力はついていない。粗大運動、微細運動共に課題がある。手先の不器用さと、動作の緩慢さがあり、活動に時間が掛かる。バランス感覚が乏しく、傾斜や高低差を苦手とする。
- ・甲状腺機能低下症があり、気温の変化に体温調節が適応しにくい。尿意を感じにくく、排尿を怠ると尿塞を起こす。

(その他)

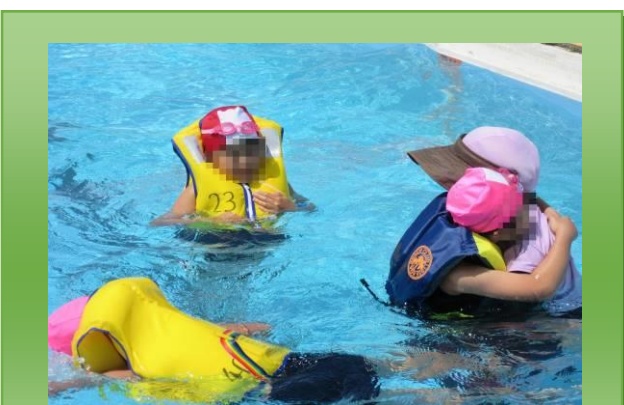
- ・保護者は静岡県ダウン症協会東部支部の会長をしており、ライフワークとしてダウン症への啓発活動を精力的に行っている。魔法の取り組みにも理解を示し、協力的である。



言葉の意味が分からず、書いている状態。



交流行事では、じっとしている姿が多かった







100cm の水位でも怖がって立てなかった。

○活動の具体的内容と、

① 音韻意識の高まりが見られ、生活の中で理解し、使える言葉が増える。

国語の授業で、以下のアプリで10分程度、音韻意識を高めたり、発語を明瞭にしたりする練習に取り組んだ。自分のペースで主体的に取り組めるように、それぞれの学習の流れを黒板に掲示した。

アプリ名	期待した効果	結果
にほんごひらがな にほんごカタカナ 	音との一致を促しながら、形を認識する。紙ベースだと、形が取れないため、書いては消しての作業効率の低さを防ぐ。	枠を指でなぞる作業を5文字行くと、書いた文字が現れるので、達成感もてる。清音の定着には、効果があった。
ひらがなトレーニング 	イラストと音声を使って、単語の分解や合成、音数を意識しながら語の習得を図る。特殊音節の習得を目指す。	単語の語尾や語頭の音を意識したり、音声を手がかりに拍数を感じたりすることができた。構音に困難のある対象児だが、発語が分かりやすくなってきた。
ひらがなめっちゃわかるもん 	50音表での文字の位置関係が分かる。	問題設定を「50音表から探す」にすると、選択肢を習得に合わせて「使用する行のみ」「使用する行+α」「全ての行」で設定できるので、50音キーボードの入力につなげられた。
小2 漢字ドリル 	対象児から「漢字もやりたい」と申し出があった。教科書掲載順に並べ替えることで、教科書教材の音読がしやすくなる。	書き順が明確に分かるので、字形が整いやすく、気軽に書き直しができるので、モチベーションを損なわず取り組めた。教科書教材の漢字の読みができ、自信をもてた。



徐々に文字の認識ができ始め、50音入力に慣れたので、行事や校外学習の振り返りなどで日記アプリ「フォト日記」や「PhotoMemes」を使って自分の思いを表現する時間を、15分程度組み入れた。「デジタル教科書」の音声機能や拡大表示で文字認識の困難を支えるツールとして導入した。



◎音韻が意識でき、今まで「てんてえ」と呼んでいたのが「せんせい」と、ティッシュを「チシュ」と言っていたのが「ティシュ」と聞こえるようになってきた。語彙が増えたことで、今まではiPadやPCの不具合を直してほしいときに黙り込んでいたのが、「ひらがなが…、算数ワンワンが…」と言葉で伝えようとするようになった。また、聞き返しても機嫌よく言い直すようになった。




② 伝わってよかった、伝わってうれしいという経験を蓄積し、コミュニケーションを主体的にとろうとする意欲を高める。

・5月に転入してきた男児の世話をしたくてたまらなかった様子だったので、ICT機器の操作などを男児が習得するまで、対象児を「小さな先生」係にした。

・10月以降は、学級以外の相手とのコミュニケーションをすすめた。保健室に洗剤をもらいに行く、事務室にチョークなどをもらいに行くなどの「おつかい」で、小型ノートに先生の相手の居場所や顔写真を貼り、用事を書いて持たせてみた。事前に校内電話などで先生方に頼んでおき、自分一人でやり遂げられるように配慮してもらった。当初は、相手がたまたま不在だとすぐ帰ってしまうのを、誰かに尋ねたり、待ってみたりする練習をした。



・11月には、音韻意識の習得を高める手立てに加えて、学級の友達以外に働き掛けたり、発信したりするツールとして「BitsBoard」を使った。

アプリ・教材名	期待した効果	結果
Bits Board 	職員の過去の写真・氏名・音声でカードを作っていく過程で、伝わる経験、伝わってうれしい実感をもつ。通常学級の子供や保護者へ発信する。	カードを作るために職員と交渉する活動をする中で、主体的にコミュニケーションをとろうという姿が見られた。学校祭りでは、個人ブースでゲームの店を開き、自分だけの力で営業することができた。 
MIM カード 	対象児が習得し切れていない音韻を含んだ言葉と絵のカードを題材にして、BitsBoardアプリでカードを作り、音と文字をつなぐ、分解する、合成する活動をする。	MIMカードの絵、文字、音声でカードを作っていく作業は、慣れれば一人でできるので、枚数が増えるのを励みにしていた。音声については、自分で何度も入れ直していた。セルフモニタリングが機能していた。3rdステージの指導が継続できた。







◎5月に転入してきた男児にICT機器の使い方を横で教えるなどして、相手を意識したコミュニケーションに意欲的に取り組んでいた。







◎訪ねた職員が不在の時、「〇〇先生は、どこにいますか。」と聞いて、行動しようとするようになった。クイズを作るために、全教職員に依頼やインタビューをすることができた。

◎Bits Boardは本児の巧緻性でも使いやすく、リサーチした情報を基にできたゲームセンターを出店し、のべ225名の来場者に対応できた。通常学級の友達や職員に、「すごい！」と認められた。

③認知や記憶、操作の困難を支えることで、行事や作業に主体的に活動に参加できる。

予定黒板を視写する場面や、算数の授業での取り組み。下段は、行事や校外学習

アプリ名	期待した効果	結果
カメラ 	板書や予定黒板などを視写する 場面で視覚 認知の不安 定さを支え る。時間内 に書ける。 	画像が手元にあること で、手書きの精度が上が った。時間内に書き終わ るうとする姿が見られ た。 
MetamojiNoteLite 	筆算をするときに、指を使って 計算し、鉛筆に持ち替えて書く ときのミスが減らす。	書き込みによる書き誤りが減り、正解が増え、成 功体験 につなが った。  


行事や活動	期待した効果	結果
運動会  	個人技を覚える。複数で取り 組む技の仲間を覚える。集団 技の立ち位置を覚える。全体 の動きに沿って参加できる。	個人技はできた。大体の見通しをもって交流学 級の子供を目で追って真似ていたので、その子 供たちが何気なく支援していた。演技中「途中 で見失ってしまった。」と保護者が驚いていた。
交流会パブリカ  	自信をもって踊れるようにす る。自分達で決めたやりたい ダンスなので、自分たちで練 習する機会を重ねていくこと で、主体性をもつ。	周囲に自分から声を 掛けたり、決めのポ ーズを提案したりと 周囲に主体的に関わ る姿が見られた。 
社会科見学 清掃センタ ー・浄化セ ンター 	見学中にメモするのは難しい ので、覚えていたい場所をカ メラ機能で撮って記憶を支え る。	熱心に写真を撮る姿を見た通常学級の児童や 施設の職員の方から褒められ、自信につなが った。振り返りの場面では、画像を見て考えたり、 理解したりする。

◎画像や映像を補うことで、情報の共有がし易くなった。いろいろな思いや気付きの表出ができた。

◎進んで画像や映像を再生して確認したり、練習したりする主体的な姿が見られた。

④保護者と連携し、健康を意識し、規則正しいリズムで生活できるようになる。

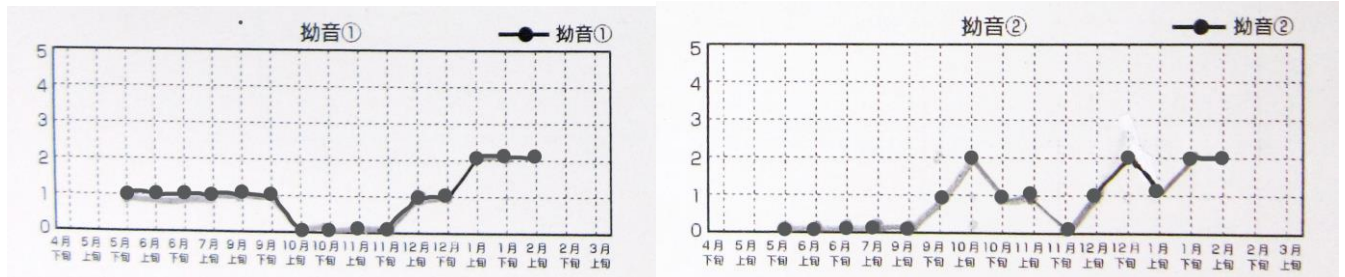
将来的に、本人が自分の健康について留意し、自己管理をしていくことにつなげていくために、保護者に依
 頼して「Sleep Cycle」で生活習慣を測定してもらった。

アプリ名	期待した効果	結果
Sleep Cycle 	睡眠時間と生 活習慣の関係 に気が付く。	就寝時刻が 10 時過ぎなのを指摘したところ、「大学生の兄と中学 生の姉の影響を受けているようだ」とのことだった。自主的に寝 る部屋の配慮をしてもらえて、就寝時刻を対象児に合ったものに することができた。

【主観的な気付きとエビデンス】

① 個別の学習を継続することで、音韻意識の高まりが見られ、生活の中で理解し、使える言葉が増えたのではないかと。

「多層指導モデル MIM」の 3rd ステージの指導を継続し、課題となる音韻を明らかにするために MIM-PM を実施した。拗音については、緩やかな向上が見られた。



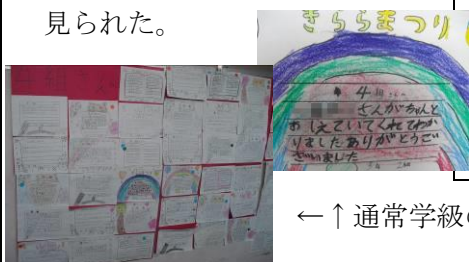
書くことについても、当初は聞き取った言葉を断片的に記載しているだけであったが、『ひらがなトレーニング』などのアプリで文字の理解が深まったことで、言葉を音韻で捉えることができた。濁音やカタカナには課題があるが、自分の思いや書きたいことを表現できるようになった。手書きでの記述においても、字形が整わず読み返せなかった状態なのが、整った字形で枠を意識して書くなどの向上が見られる。

<p>5月</p>	<p>↓ 9月</p> <p>↓ 1月下旬</p>	<p>2月上旬 手書きの日記</p>
-----------	---------------------------	--------------------

↑ 記述の変化

② 伝わってよかった、伝わってうれしいという経験を蓄積したことで、コミュニケーションを主体的にとろうとする意欲がたかまったのではないかと。

学習活動を進める中で、教師の支援に対してほとんど受容していたのが、提案したりするようになった。一方で、難しいものでも楽しんで取り組もうとする姿も見られた。自分から選択して活動に参加する姿、自分の課題を自分で調整する姿が見られた。



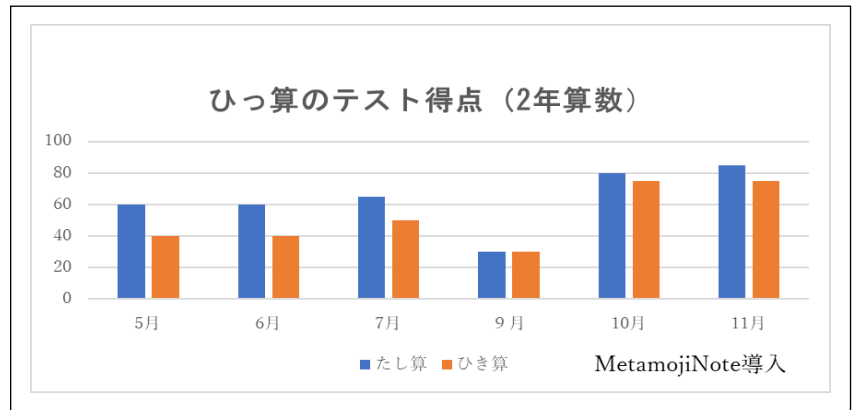
← 通常学級の子供から高評価

自己選択をする言葉	自己決定する言葉	達成感を得た言葉
<ul style="list-style-type: none"> ・こっちがいいです。 ・(カメラを使わないで)書きたいです。 ・覚えているから、ビデオはいいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、やめます。 ・自分で決めます。 ・自分でやりたいです。 ・(委員会に)行きたいです。 ・(給食を)減らしてください。 ・(漢字を)書きたいです。 ・もう少しやりたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいです。 ・がんばりました。 ・(筆算は)得意です。 ・算数は楽しいです。 ・ああ、楽しかった! ・(給食)食べきれた! ・テストができて、うれしいです。

↑ 表 本児が伝えてきた言葉

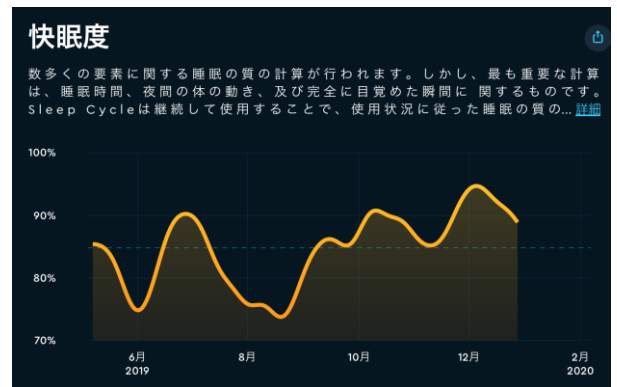
③ 「このやり方をすればできる」という実感を重ねていくことが、自信につながったのではないかな。

冒頭に書いたように対象児は視力、巧緻性、発語の不明瞭さなど言語に対して多くの苦手を抱えている。加えて本人の特性として相当難しい課題でも誠実に取り組み、何とかやり遂げたいという思いがあった。反面その思いが障がいにより満たされていなかった。今回利用したカメラ機能や番組検索は容易に扱え、今まで気付いたり感じたりする以前にあった困難を緩和できた。



④ 睡眠状況が可視化されたことにより、保護者も教員も同じ情報を共有しやすく、生活習慣について前向きな提案、改善ができたのではないかな。

将来的には、対象児自身が健康管理をしていけるような生活習慣づくりや疾病予防のスキルをもてるようにしたい。しかし、現段階では、保護者が対象児の睡眠状況を可視化することで「何が睡眠に影響しているか」を推察し、生活習慣を見直していくところまでの成果があった。実際に、9月から保護者とデータを共有してから、対象児の就寝時刻が早まった。その後、保護者は快眠度を見ながら家族の団欒時間を確保しつつ就寝時刻を調整していったそうである。



【今後の課題】

本児は iPad を活用することで、主体的に活動に参加し、自信を付けることができたと思われる。今では以前はあまりなかった世間話のような内容を、学級内の友達同士で話すようになった。「ほうかごデいで、おまごををして楽しかったね。」「〇〇さんは、どうする？わたしはね……」など、会話を楽しんでいる。今後こうした姿をもっと広げていきたいと考えている。双方向のコミュニケーションの力を伸ばすために、交流先の担任と協力して、通常学級との交流授業で役割を与えて、全員の子供と関わる場を設定していきたい。

【その他】

対象児を主人公にした絵本『あいちゃんのひみつ』竹山美奈子作 江頭路子絵 岩崎書店 来春に全国出版。